

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

④

「五葉」の名前を持つ山は、日本地図帳で見ると、ユニークなところがかり全国に二つだけ。一つは岩手県、もう一つは宮崎県の北端、北川町の五葉岳である。標高は五葉岳が二百三十メートル、

このことを調べて気づいたのは、岩手と宮崎の共通点。どちらもまちづくりの先進県、というよりもまちづくりに取り組んで、高い成果を挙げている市町村の多いことである。

岩手県には住田町をはじめ盛岡、遠野、陸前高田、釜石などの各市、葛巻、岩泉、藤沢、西和賀といった町、旧衣川村などたくさん地域が思い

浮かぶが、宮崎県もまた、ユニークなところが多。いまは合併して美郷町になった旧南郷村は、地元の古い神社に残る伝説が朝鮮半島の古代国家・百濟(くだら)とのつながりを示していたところから韓国との交流に取り組んだ。

# ニッシーエイ

五ヶ瀬町では、人工では不可能といわれたヤマメの養殖に取り組んだ人が出て、失敗を何度も繰り返しながら、ついに成功。

やがて、町は彼の提案を受け入れて日本最南端のスキー場の建設を始め、平成二年に「五ヶ瀬ハイランドスキー場」がオープンした。

平家落人伝説の残る椎葉村は村民の45%が那須姓と椎葉姓だが、ここは村の面積が広すぎることもあって、道路の舗装率が極めて低く、未舗装道路日本一。

五月には鯉のぼりの代わりに「鯨のぼり」を泳がせ、夏には鯨の山車を先頭に鯨の形のいかだで川下り、新年には小高い丘の頂上でくじら太鼓を

## 岩手から九州・宮崎へ

神奈川県横浜市 亀地 宏

本ラリー選手権が始まった。未舗装、難路の山岳コース二百五十キロを一つの村でつくれるところはほとんどない。誰が見てもマイナスとしか思えない悪条件を、ここでは見事にプラスに生かした。

やはり、合併で宮崎市の一部になったが、旧佐土原町では若者たちが地元の名産「鯨ようかん」にちなんで、「佐土原くじら会」を結成、鯨をテーマにまちづくりに挑戦した。

五月には鯉のぼりの代わりに「鯨のぼり」を泳がせ、夏には鯨の山車を先頭に鯨の形のいかだで川下り、新年には小高い丘の頂上でくじら太鼓を

や村が懐かしい。まちづくりに取り組むうえで大切なのは、未知の世界、知らない人たちとの出会いと交流。それによって自分たちの世界が広がり、新しい知恵が生まれる。自分の地域に閉じこもっていたのでは飛躍もできず、新たな展開も望めない。

【執筆者プロフィール】横浜市在住、六十九歳。ジャーナリスト。日本経済新聞記者を経て、平成二年に独立。まちづくりをテーマに全国各地を歩き、取材、執筆、講演活動を継続中。「笑う町には福来たる」「株式会社「岩手県葛巻町」の挑戦」など著書多数。

旧佐土原町(現宮崎市)で若者たちが「佐土原くじら会」を結成。鯨をテーマにまちづくりに挑戦し、夏には鯨の山車を先頭に川下りも

